

令和4年度住宅市場を活用した空き家対策モデル事業の応募状況  
及び評価委員会による評価の概要

1. 応募状況の概要

- ・ 応募期間：令和4年4月20日～令和4年5月20日
- ・ 応募総数：116件

(1) 部門別の応募数（計116件）

- （部門1）専門家等と連携した空き家に関する相談窓口の整備等を行う事業：21件
- （部門2）住宅市場を活用した空き家に係る課題の解決を行う事業：50件
- （部門3）ポスト・コロナ時代を見据えて顕在化した新たなニーズに対応した総合的・特徴的な取組を行う事業：45件

(2) 事業地域別の応募数（計116件）

（単位：件）

北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・ 沖縄	全国・ 複数 地域
1	8	20	8	14	24	9	3	13	16

- ・ なお、令和3年度に本モデル事業において採択された団体からの応募は48件あった。

2. 評価委員会による評価の概要

① 部門1

相談窓口等の空き家対策の執行体制の整備が必要な地域において、自治体と法務、不動産、建築、金融、福祉等の専門家等が連携した相談体制等を構築する取組の提案を求めるものである。

（概要）

- ・ 地域の様々な分野の専門家・団体等との連携・役割分担や相談スキームが明確な提案など、「実現可能性・熟度」や「持続可能性」等が高いと判断された提案については、高く評価された。
- ・ 一方、連携体制や取組実施後の事業展開が不明確な提案、取組に要する所要額が過大と思われる提案、既に行っている取組の内容から進展のみられない提案など、「実現可能性・熟度」、「効率性」や「提案の新規性・工夫」等が低いと判断された提案については、低く評価された。

## ② 部門 2

住宅市場を活用して課題解決を図るべく、民間事業者等が主体となって新たなビジネスモデルを構築する等のモデル的な取組の提案を求めるものである。

### (概要)

- ・ 地域における空き家対策の課題を的確に把握した上で、その課題に対応した新たな空き家活用の事業スキームの提案など、「実現可能性・熟度」や「持続可能性」等が高いと判断された提案については、高く評価された。
- ・ 一方、収益性ある事業スキームを構築する視点に欠ける提案、既にビジネスとして行われている取組を他の地域へ展開する提案など、「持続可能性」や「提案の新規性・工夫」等が低いと判断された提案については、低く評価された。

## ③ 部門 3

空き家の多様な活用や流通を促進するため、ポスト・コロナ時代を見据えて顕在化した移住、定住、多地域居住等の新たなニーズに対応した空き家の利活用促進等に係る総合的・特徴的な取組の提案を求めるものである。

### (概要)

- ・ ICT を活用した、空き家バンクに登録された空き家の所有者と遠隔地に居住している移住希望者等との Web 上でのマッチングが可能な体制づくりを行う提案など、「持続可能性」、「発展性・波及性」や「提案の新規性・工夫」等が高いと判断された提案については、高く評価された。
- ・ 一方、既にビジネスとして行われている取組を他の地域へ展開する提案、具体的な取組の手法が明記されていない提案など、「実現可能性・熟度」や「発展性・波及性」等が低いと判断された提案については、低く評価された。